

## 国際協同組合デー第34回京都集会 アンケート（回答数61）

### [1] 記念講演「地域から考える新次元の協同組合間協同」はいかがでしたか

とても興味深くわかりやすい内容で改めて協同組合の歴史と位置について再確認することができました。時代の変化と共に協同組合の地域において果たせる役割や可能性は大きいと感じました。協同組合原則と非営利団体としての強みを地域のステークホルダーとしての取り組みにつないでいきたいと思いました。

協同組合で仕事をする中で、「職員のやりがい」をどう位置付けていくか、感じていくかを考える中で、2012年の国際協同組合年、2016年のユネスコ文化遺産は勇気づけられることでしたが、組織的に認知・理解・行動に移すことが出来なかったことを思い出します。本日のお話から原点と2025年のとりくみを学ぶ・考えることを始めたいと思います。ありがとうございました。

J Aの職員レベルでは最初ピンとこない部分がありましたが、日本の協同組合が置かれている状況が確認できました。各事業において他業態の競争の中で協同組合である独自性を出せていないことが原因であると思います。

現在の日本において、経団連はじめ財界・官僚の意見を中心に動く中、利権の足枷となる協同組合を出来れば排除したい方向に政治が向いている。マスコミにおいてもネガティブな報道が多く残念な結果になっている。昨今のニュースを見てもわかる通り、政治家も献金をくれる民間企業寄りの政策をすすめている。このような中で組合員以外の一般の人にどう理解させるかが重要だと感じる。生産者・消費者ではなく地域のステークホルダー全体を巻き込む必要を感じた。

2025年が協同組合年であること、共済の男女掛金が同一というのは初めて知りました。

日本の協同組合には多くの可能性が秘められていると思う。1人1団体の力ではなく大きな束になって同じ方向を向いて新しい方法を模索することで、新たな道を切り開くことができるのではないかと、それが求められていると思う。

世界では協同組合は1つの団体として活動しているのに、日本では法律上できない事を知りびっくりしました。日本全体で協力していければ、もっとより良い国になると感じました。

それぞれの協同組合が特色を活かして連携を図ることで、より組合員のニーズに応えることができると感じました。

物価高騰やその他不安定な世の中で、協同組合の重要性が増していることがわかった。日本において協同組合は自分が思っているよりも身近なものとなっていないことが分かり衝撃を受けた。

協同組合に入会して2年目ですが、原則など初めて知る内容ばかりでした。世界的には注目を集めているけれども、日本では全くメディアに取り上げられないことがないため、国民に協同組合が何たるかを知られていないのは非常に残念です。2025年日本でも協同組合の大切さや取り組み内容が理解されることを願います。

本日の講演を受けて、自分は協同組合について、知らないことがたくさんあるのだと実感しました。協同組合の歴史等、協同組合について、少しでも知ることができてよかったです。これから協同組合について理解を深めていきたいです。

協同組合で働いている自分にとって、協同組合が民間の非営利団体であることや社会問題や暮らしの向上に熱心な団体であることが認知されていないことは残念に感じましたし、もっと多くの人に認知してほしいと感じた。

世界各国の協同組合と日本の協同組合、両方の面で協同組合について短い時間ではありましたが、新たな知識として身につきました。協同組合に対する世間の認識と、実際の協同組合の差を埋めるには、原点から学ぶということが重要だと感じる内容でした。協同組合とは単なる流通機関ではなく、教育機関であるということを意識しながら、消費者・生産者など関係なく、多様なステークホルダーを巻き込んで認識を変えていけたらと思います。

大変勉強になった。
本日のご講演で協同組合とは何なのか？という点と関係者自身が「意味」や「原点」を再確認する必要があり、理解しないといけない。その為には、知識を付けるのにもっと協同組合を再認識しないといけない。
世界では協同組合への評価、注目が高まっている中、日本では協同組合への関心、注目が高まっていないとお聞きし、協同組合で働いている身として、まず私自身が協同組合への関心を高めていきたいと感じた。
協同組合連携（協力）が今後さらに重要となっていく中、日本での協同組合活動の重要性を再認識しました。
J A 共済連に入会したものの、いまいち協同組合について深いことを知らなかったので良い機会となった。他の国ができていて日本ができないのは深く受け止めていないか、重要視していないのではないかと感じた。
ヒントになるお話が大いにあり、勉強になりました。
協同組合の歴史をていねいに話され、理解が深まりました。日本の協同組合に対する取組み姿勢が非常に弱いことを知りました。取組強化に向け方向転換を期待します。
他行と異なる特殊な団体だからこそ、特殊な発展を今後も続けていくべきだと考えます。
協同組合において日本は海外に遅れをとっていることを知り驚いた。
協同組合の歴史から、なぜ協同組合なのか原点を見つめ直す良いきっかけだと感じた。誰かではなく、みんなのための協同組合という考え。
協同組合・地域・消費者 三者のバランスが大切である。また行政も積極的にリードしていく必要がある。
協同組合が正しく理解されるようになるとういなどと思いました。
国際社会と日本社会での協同組合に対する評価の違いについて、とても分かりやすく勉強になりました。また、組合員だけでなく地域住民との関りも大切で、他事業の協同組合とのつながりを拡大していくことで、日本全体が協同組合の大切さを広めることが必要だと感じました。
世界の協同組合の動きがよくわかった。学生（子供）への教育の重要性が再認識できた。
ロッチデール原則を改めて学ぶことができましたし、マンチェスターで視察したことを思い出しました。2025年の二度目の協同組合年で、協同組合の良さを再アピールしたいです。
就職前は協同組合のイメージは生協ぐらいで、他はいまいちでしたが、そういったPR不足が今の問題につながっていると感じました。組合員のみならず、一般にむけた周知をどうしていくか、各組合の魅力・自力が試されるのだと痛感しました。
先生のお話の通り「協同組合」の認識度はすごく低いと思います。ヨーロッパとは歴史や文化が違うからでしょうか…
世界での協同組合の流れと、取り残された日本の協同組合について理解できた。
講演の内容で協同組合の連携が必要な事を感じた。今までは個々の協同組合が活動しているように思っていた。
久しぶりにロッチデール理論を思い出し、初心に戻った気持ちです。協同組合のあり方、意義を再度見直す機会となりました。
とても勉強になりました。国際協同組合年の大切さ、協同組合の原点を知ることの大切さ、協同組合間協同の大切さを教えていただき、色々な疑問が歴史を聞くことで少しずつわかってきました。世界の協同組合の動きを知ることでたくさんのヒントがありました。今後に生かしていければと思います。
大変わかりやすく、現状とこれからについて知ることができました「多様なステークホルダー」を巻き込んで、組合員だけでなく地域へとお役立ちを広げていくために何ができるのか、とてもワクワクします。まずは、自生協内で事業系統ごとになっていることをつなげて総合力を強め、生協外とのネットワークも広げながら、生協が出来ることを見つけていきたいと感じました。
協同組合について知らず、森林組合に勤めていました。今回協同組合の歴史を学べた事が良かったです。
とても勉強になりました。今までの流れがよく分かりました。生協だけでなく、地域との連携大事ですね。

特に「異種協同組合間協同」については感銘を受けた。「我々にも協同により何かできないか」と考え続ける必要があると感じた。こり固まった考えや、自組織の守備範囲を限定する事を排除して、これからの協同組合を作っていけたら良いと思った。

国際社会では協同組合が果たす役割が大いに期待されていることを知ることが出来ました。協同組合の原則をあらためて見直すことができました。

協同組合に関する世界の流れが分かりやすかったです。

地域生協から参加しました。コロナ禍もあり、ここ数年協同組合の価値を伝えることも少なかったですが、私たち自身の学びも機会が減り、少ない新たな担い手にはないに等しいのでは？と思います。コープエキスポの事は今回初めて聞きました。2025年国際協同組合年をむかえる今、改めて広くみんなで学び、価値について声を出し合いたいと思いました。

国際機関と比べると、日本の協同組合の見られ方は、活動よりも良くない様で、職員としては残念だと思った。2025年来年が2度目の国際協同組合年であること、2016年に協同組合がユネスコ文化遺産に登録されていることを知りました。京都生協が産直3原則の生みの親ということも。世界の期待とは裏腹に、日本では協同組合が何であるか、やっている良いことなどがあまり知られておらず、広報の重要性にも改めて気付かされました。

日本の協同組合のよいところも残念なところも色々学ぶことができとても参考になりました。中丹・丹後地域での生協の、主に事業ではなく組合員活動を中心に現在担当しており、生協組合員に協同組合として農協・漁業とも共に貢献していることをアピールします。

協同組合の大切さと、協同するという事で民間企業と対等にできるという組織であるということが良く分かりました。存続にはコミュニティが必要であり、JA、協同組合の役割をしっかりとできるように取り組んでいきたいと思いました。有意義であったと思います。

杉本教授の話し方(身振りも含め)が分かりやすく、固い内容であったと思うが分かりやすかったです。世界と日本での違いに驚きました。

日本における協同組合と世界での捉え方にずいぶん違いがあることを初めて知りました。協同組合に所属する我々への叱咤激励と受け止めました。

流通機関ではなく教育機関であるという言葉が印象的でした。今も学習会を大切にしている意味が通じました。多様なステークホルダーを巻き込む必要がある事を被災地支援を例に挙げてご説明頂き理解が深まりました。取り残される日本の協同組合を残念に思いました。どうすれば良いのでしょうか…

ロッチデールの原則を再認識した。食の安全性に対しての信念を貫いた。協同組合(生協)は流通業ではなく「教育機関」である…心に響きました。1995年の原則修正で第6原則「協同組合間協同」と第7原則「コミュニティの持続的発展の関与」がピックアップされた事は重要、日本の協同組合はもっと有意義とアピールすべきだと感じた。

2025年2回目の協同組合年の意義について勉強になりました。

協同組合の認知度の低さと正しい評価をどのように改善するか。マスコミのミスリードにどう対抗するか。

「民間の非営利団体である」と正しく理解している人の割合が低い調査結果に驚きましたが、組合員の高齢化が進み、若年層の取り組みが課題である中、便利さや商品の魅力アピールばかりしては、それはスーパーマーケットやメーカーと同じと思われても仕方ないと思いました。2025年の国際協同組合年に合わせて、日本での協同組合の理解が深まればよいなと思います。

ちょっと次元が高く実践向きしない。

2025年国際協同組合年を前にとっても大切なことを知る講演でした。国際社会と日本の立ち位置の部分など、知らないことを知るきっかけになりました。内からは気付かない外、客観的な認知のところもデジタル化で見ること、知り、伝えることがこれから出来ます。分かりやすい内容でした。ありがとうございました。

協同組合に対する、他国での相対的な評価、認識の低さにおどろいた。このあたりの改善も協議会のミッションになればと思いました。

杉本先生の話聞いてまず原点、現状、今後と段階を踏んで説明を受けました。大変わかりやすく良い復習になりました。その中で日本の現状の悪さそれを見直し、他国のように人々を巻き込み、協同組合連携が必要であるという事を再度理解しました。

協同組合の原点がロッチデールの小さな店のルールだったこと、そこから独自の運営哲学とともに発展していったことがよくわかった。先生のお話を聞いていて諸外国に比べて日本の協同組合は今、減速しているように感じた。ロッチデールの原点を忘れずに来年度の国際協同組合年には、諸外国に負けないように、原点にもどって反省すべきところはしながら、自分たちでつくってきた協同組合のいっそうの発展に向けて行動する時だと思う。

日本での協同組合の認知の低さや本来されるべき期待がされていないことが示されましたが、初めて組合員活動に参加する方は決まって、こんなことしてたんだ！という反応なのが、その現れですね。協同組合間協同もまだまだこれから、しっかりしなさい、と受け止めました。

「協同組合のアイデンティティがどうやあって生まれたのか」「なぜ協同組合のアイデンティティが必要なのか」大変よく理解できました。協同組合の歴史とともに説明いただき、つながりもわかりました。本当にワクワクする目から鱗のお話でした。

## [2]「京都府内4協同組合からの活動報告～協同組合の担い手が語る～」はいかがでしたか？

### (1) JA：「地域住民とのつながり創り～JAにしかできない、ふれあい活動」

持続可能なJA組織としての活動・参加の広がり地域住民との交流を課題・目的とされている事は生協（生活協同組合）も同様で共感するお話でした。

ふれあい祭り、JAまつりについて、集客はあるが、成果が目に見えないので、どの程度力とお金をつぎ込むべきか難しいと思います。

正組合員中心から地域全体への取り組み（マルシェ→ふれあい祭り）目的の為に今後どのように取り組むかが重要であるとともに、理事や組合員、職員の理解が必要と感じた。

JA主催でなく、営農者会・運営委員会が主体となって頂けた事により、地域の参加者も自分ごと化できたと思います。

地域のJAにとって、一般の方に周知・イベント活動を通したファンづくりが大切と感じた。

農業者・組合員だけでなく、地域住民とのつながりをつくることはとても良い取り組みだと思うし、JAグループ京都全体でも取り組んでいくべきだと思いました。

地域とのつながりを強化するための取り組みは、今後のJAの大きな課題でもあるため、非常に参考になる事例だと感じた。

協同組合の本来の役割を果たしているすばらしい取り組みだと感じた。

幼い頃にJA主催の運動会に参加したことをはっきりと覚えています。地域に根差した活動はJAを身近に感じられるきっかけになると感じました。

マルシェ・ふれあい祭等、組合員や地域の人と何かを作りあげることが、JAならではの強みだと改めて感じました。まずはやってみることで、みえてくる課題もたくさんあると考えるので、その課題1つ1つの解決策を考えていくことが大切だと思いました。

乙訓マルシェ・ふれあい祭のことを知らなかったもので、知れてよかったです。どうしても通常業務からすると「余計な仕事」と考えてしまいましたが、積極的に地域住民と交流の場を設けることは大切だと思いました。

職員だけでなく、組合員をまきこんで、農家のための農協から地域のための農業にしていく、そのための課題や取り組みが明確になっていることで、支店まつりのつながったと感じたので、日頃から地域を意識すること

の重要性を改めて感じる機会となりました。
興味深く聞くことができた。2025年に向け新しい協働の力が発揮できれば良い。
現状と問題背景を確認し、実際に目標・目的を見出し行動する。結果、地域住民との交流やLINE登録などでJAの情報を広められたらと、「地域のJA」にするという点はすごく効果があると思った。
地域への関りを強化していくことは非常に大切な事であり、1つ1つのイベントが地域との関り強化につながっていると感じた。
地域住民とのつながり創りとしてJA祭りの意義を再認識しました。
地域のJAを目標に組合員・農家の人だけでなく、地域の方々とのつながりを作るのは大切だと感じた。
組合員に対する積極的な取組みをされていることに共鳴しました。これからも地域に根ざすJAを応援します。
マルシェにてJAカード推進をおこないたいと思いました。直売所の代わりとしてJAカードのご利用で5%OFFを適用。その埋め合わせとしてJAカード推進の助成金を利用できると思います。
JAの来店を増やすために、地域住民とつながる場を用意し、長い目でJAを支えるための方法をとっていることを知った。
JAに対する強い期待と要望に応える義務がある。情報を発信していく。
組合員のためのJAであるが、地域住民のつながりを創り、協同組合の輪を広げていくことが大切。
JAは自分に関係ないと感じる住民の方々の気持ちはすごく分かるので、つながり強化のための活動は大切だと思った。
地域住民との関りを目的にマルシェやふれあい祭を支店独自で開催していることが、今後のJAを支えていくのだと感じました。課題はあるとのことでしたが、JA全体で支援してく事業だと思いました。
この活動が組合員拡大にもつながることを期待します。
マルシェ・ふれあい祭の開催は、通常業務からすると「余計な仕事」と職員にとらえられてしまう。地域に根ざしていく生協として必要な事だと思いますが、人手不足の中この種のイベント開催に二の足を踏んでいます。継続されているヒントやしかけをもう少し聞いてみたかったです。
どこも一般の方とのつながり作りに課題があるのだと分かりました。
組合員との信頼関係の再構築と組合員離れは、いずれの協同組合共通の課題であると思います。
組合員のJAから、地域のJAとなるよう頑張ってください。
組合員を忘れたJA経営のように今は感じる。今日の発表のように地域の方々、又組合員の方々を巻き込んだJAの復活を期待する。
JAのみならず森林・JFとの協同組合間連携を活用し、組合員向けイベント活動を強化すればマンネリ感も解消するのでは… (例) タケノコの時期 ⇔ 京都府産わかめの共販など
対象を地域住民へと広げたことをきっかけに新たな活動が始められ、楽しくなっていくのは今後も楽しみになりました。
地域の農業者と住民をつなぐ、大変な仕事だと思えます。長期の取り組みになると思いますが頑張ってください。
府内JA全体で、同様の取り組みを発展させることが事業継続の力になると思います。営業目標ばかりに意識を向けるだけではダメだと感じています。
マルシェ・ふれあい祭など、様々な活動を行っていることを知ることが出来ました。
地域活動の成果を具体的に紹介されており分かりやすかった。
地域生協のお店でも組合員とつながってもらい、イベントを共にして盛り上げていきたいですね。私たちがしている学びや組合員活動にも通ずる課題でした。
農業を身近に感じてもらい、新規の利用者を増やしていくことで、地域農業が盛り上がり、協同組合にできる、

ならではの取り組みだと感じた。
地域住民とのつながりをつくるために、マルシェの定期開催、ふれあい祭など、楽しい企画を打ち出し、JAファンづくりに取り組んでおられる様子に刺激を受けました。「地域のJA」という言葉に魅かれました。
コロナで実参加のイベントがなくなり、経験値が0になった中、また0から始めていったことに頭が下がります。でも組合員が待っていた取り組みにたくさんの方が喜んだと思います。
地域の方を対象に何ができるかを考え行動したことで広げられた事が良かったと思います。
JAへの期待、課題が良く分かりました。「意図せず排他的に」という言葉が印象に残りました。
課題認識から実践まで、試行錯誤で取り組んでいることがよく分かりました。
地域の方々とつながる様子と大切さがわかりやすく解説されていて良かった。
JA乙訓様も自己分析されているように、コミュニティに開かれたJAが今後の課題と感じた。
地域の人とのつながりを大切にされている様子が伝わってきました
地域住民とのつながり強化を実践で対応「まずはやってみよう」の意気込みが重要。
農家でない人はJAとどう関わっているのか、関われるのか、わかりませんでした。地域住民とのつながりを、JAでは望んでおられるのですね!!
それぞれが取り組まれており素晴らしいと感じました。
JAファンを作るほどの位の熱量があるのか、伝わるかは本当に難しい課題だと感じました。協同の部分でJAと繋がる事業は多いと思うので、地域の人々との交流からという目線は共感できました。
JAにしか出来ないふれあい活動、参考になりました。
地域に貢献したいという強い思いで日々試行錯誤しながら活動されていることがわかった。
<b>(2) JF：「Iターンからの漁業経営確立への取組」</b>
Iターンで漁業に取り組み、地域の産物・養殖や漁業の推進、若手の活躍地域貢献の取り組み、とても素晴らしいと思いました！地元の産物、感謝して頂きます。
組合員自らの体験にもとづいた発表でよく分かった。地域の活性化につながってほしいと感じた。
農産物も海産物も工業製品と違い、時期ごとに商品が異なる中で経営確立されることはとても難しいと感じました。
自身の実体験や今後の目標が発表されていてよかった。
Iターンで今までの仕事とは全く違った漁業という職種を選び、そこで色々な取り組みを行い、地域全体で収入確保、PR等を行っているという事ですばらしいお話を聞かせていただきとても勉強になりました。
Iターンで漁業経営を確立した事例を広めることで、漁業就業者が増えるのではないかと感じた。
Iターンをすることは簡単ではないことが伝わってきたが、しっかりと成果を出せば地域活性化、地域の維持につながる事が分かった。協同組合組織の1職員としてその支援も行いたい。
Iターンは決して簡単なことではないと思いますが、地域の方々の協力を得て、身につけていくのを知りました。生半可な気持ちでは続けていけないだろうと感じました。
今まで、漁業について、あまり知りませんでした。今日のお話を聞いて、どのように取り組まれているのか分かりました。
カキ養殖や大型定置網の活動がどのようなものかわかりやすかったです。漁業の就業者を増やす活動を行っている方のことも知れて良かったです。
Iターンは若い人が高齢過疎化地域に行くだけでなく、地域の活性化、隣接地域との交流・連携、若者への影響など様々なプラスの影響をもたらすとともに、地域PRにもつながっていくという事がわかりました。
生産者の高齢化や担い手不足といった問題はどの業界においても、今後の課題でもあり、地区との連携強化、

活性化に議論が必要である。
都市部から離れば離れるほど人材を確保することが難しいと改めて感じた。そのような中でIターンから実際に頑張られている方がおられるという事例があると、今後の人材獲得にも大きくつながると感じた。
行動力と実行力に感銘を受けました。
1から養殖を学び出荷量も少しずつのばしているのはすごいと思った。生活できるまでに経営確立させ、新しく漁業を始める人の育成に力を入れていくのが先を見ていると感じた。
暑い日も寒い日も海に出られてて、大変だと思います。カキの生産増強に頑張ってください。消費に協力しますヨ。
1月～3月は3種類、4～8月は4～5種類の作業を並行しておこなっていることに驚きました。
生まれ育った土地を離れ、新しく漁業を始める大変さや、行っている事業について知ることができた。
Iターンについて、イメージ戦略が必要だと考える。(現状は古臭い)
豊かな海から得られる海の幸、苦勞しながら経営されている姿が印象に残った。
漁業のことがよく分かった。
Iターンでの漁業をするとともに、地域活性化のために様々な活動をされていてとても興味深い話でした。
養殖だけでは収入面が厳しいのには驚いた。
若い方が漁業を継ぎ、拡大してくださるのは頼もしいと思います。青井育成会の発展を祈念します。
地域に人が入り盛り上げていく姿勢に感銘しました。一度行ってみたいくなりました。
一人で色々な漁をしているんですね。
10年間大変ご苦勞様でした。これからも頑張ってください。
大変努力していただいて感動しました。今後も頑張ってください。
若い方との漁業への参加に期待します。そのためには安定した収入も大事だときいたことがあります。生協が産直という仕組みで消費者と生産者をつなげ、応援できるといいですね。
府内にも様々な魅力あるエリアがまだまだあり、その一つの舞鶴に根付いた活動に感銘した。何かの形で応援出来たらと思う。
地域社会がこれから新たに就業される方に対して様々な取り組みをされていることを知ることが出来ました。頑張ってください。
操業スケジュールが分かりやすかったです。
若い世代が伝統と色々な工夫をして持続可能な漁師として安定的に結果を出されているのが力強く、頼もしくすばらしいです。
Iターンから漁業に取り組むことは、きっかけが難しいと感じた。気軽にはじめられるようになればいいなと思った。
パワーを感じました。次々と新しい漁業にチャレンジし、育成会を結成するなど、人手不足ときく漁業界に新しい風を吹き込んでいる様子が伝わってきました。
舞鶴の豊かな海について、あらためて知ることが多く、とても興味深く感じました。個人的にも土曜10時に青井へ買いにいこうと思います。
宇治出身なのにお茶ではなくお魚とは大変でしたね。頑張ってください。私も宇治出身です。
自身で年間操業スケジュールを考え、収入を安定されたのはスゴイ！と感じました。Iターンされることで地域の活性化にもつながっていて、地域の一体化にも影響を与えていてよいと思います。
個人の生活に密着した体験・経験に基づく発表であったので興味深く聞くことが出来ました。
ご自身の経験をわかりやすくまとめられていて聞きやすかったです。
Iターンで積極的に行動することにより、道が開かれていく様子がよくわかりました。

I ターンのいい成功事例でした。
若い方が活躍されている様子が分かり、これからも頑張りたいと思います。
各種の漁への挑戦がリスク分散となっていると感じる。農業・林業においても同様の観点が必要ではないか。
高田さんの、I ターンして漁業に転職されるお話に感動しました。カキの養殖が軌道に乗っても、定置網会社に就職するなど、漁業がいかに厳しい職業なのか思い知らされました。
漁業にも色々な種類があり、後継者、生産者の取り組みを知ることが出来ました。同じような方々が増えることで持続可能な漁業が続いて欲しいです。ありがとうございました。
はじめて漁業関係の話を聞きました。素晴らしい!!
自然とともに生きていくことは、こちらの意思だけではたちいかないことも多々あるなかで、前向きにいろいろなことに挑戦されていることに感心した。そういった姿勢が漁業だけでなく地域の発展にもつながると思う。I ターン者が増えるといいと思う。
<b>(3) 森連：「京丹波町における森林教育の取組」</b>
I ターンで地域おこし協力隊を入りに林業に携われ、地元の小学校での森林環境教育はとても興味深く子供たちが地元との特性や自然（森林）を学ぶ体験はとても貴重で、きっといろんな事につなげると思いました。素敵で活動でとても工夫されていて素晴らしい!
林業は長い間きびしい環境にあったと思っているが、一方で国はチグハグな助成をしてると感じる。もっとこの様な取り組みや林業従事者に補助をするべきであると感じた。
森林管理には長い年月を要する中で、若年層からの教育は継続必要と感じました。
小学校教育として各学年に応じた取り組み内容だったのでとても素晴らしいと思う。
こちらでI ターンという事で、林業に関するくらしとの関りを、次世代の担い手になりうる子供達に楽しく伝える活動をされていて素晴らしいと思えました。人として自然とふれあう事はとても大切な事だと思います。
林業の概要を初めて知った。森林教育は非日常的であり、子どもにとっても刺激になる取り組みだと思う。
こういった地元で根差した活動をする事で、子どもたちが地域のつながりの大切さ等を感じるきっかけになってほしいと感じた。
京丹波町の小学生がうらやましいくらい森林教育が楽しそうでした。街中ではできないよい経験だと思います。
私たちの暮らしにかかせない森林について、小学生の頃から学べるのはいいことだと思えました。
林業や森林教育の取組みについて理解できました。森林教育は今後も大切な教育だと感じますし、日本で生活する全員が意識すべきだと思います。
森林伐採をはじめとする様々な自然に関する環境問題が、新たに発生している現在に、森林に関して学ぶことのできる環境が整っているのは素晴らしいことだと思います。小さな頃から自然に関わっていることで、森林に関する意識がかわってくると感じました。
林業の保育という点で、小学生の子供の時から、森林にふれあうことは、今後の担い手の期待にもなり、良い学習にもなり、環境についての認知にもなりうると思う。
小学校1年生から森林教育が行われているということで、毎年小学生にとって森林について考える時間を取ることができ、森林・木材を大切にしたい気持ちがより強くなり、大切に扱うことにもつながる感じた。
森林だけでなく、農業でも同じ取組みが必要と感じた。まさに協同組合間協同（連携）を実現すべきである。
林業の仕事だけでなく小学生を対象とした活動に力を入れており、地域のつながりを感じた。
森林教育というのがあるのを初めて知りました。小学1年～6年まで、その学年に応じたカリキュラムがキッチリとされて、取り組まれているのが、とてもすごいことだと思います。近隣の子どもに森林の大事さを十分に教えられていると思います。



小学生となにかを実施することは大変だと思いますが、小学生が自然と向きあう貴重な機会となるとと思いますので、今後も続けていただきたい。
地域の特性を活かした森林教育の具体的な取り組みを知ることができた。
森林教育について地元学校だけでなく街中の学校にも広げるべき。
森林体験教室を通して森林教育されているのは、活きた授業であり重要である。
自然に触れる機会は少ないので、小学生向けの体験があるのは良いなと思った。
町内小学生への森林体験や学習をされていて、子どもたちにとってはとても良い貴重な体験になり、これを通じて成長できる良い機会だと感じました。森林の大切さだけでなく1から何かを造り出す経験は、大人になっても活かせると思いました。
学校林があるのは初めてきいた。森林教育はとてもいい取り組みだと思う。
最近手入れの行き届いていない森林をよく見かけます。子どもたちへの森林教育で、子どもたちが森林に興味をもち、日本の森林が守られていくとよいと思います。
子供のときの体験・経験は非常に大事だと思います。
今、大切な子どもたちへの教育です。府内の小学校等へ広がってくれたらいいと思います。
森・山は先の見えない長い期間の業務になりますが、地道に努力がんばってください。子どもたちに森・山とふれあう機会をもっと増やしてください。
すばらしいです。体験することで、学校で勉強したことがぐっと身近に感じるだろうし、わからなかった事を職人さんに直接質問もできるので、つながりもでき、とてもすばらしい学習だと思いました。
生協の若い方たちも環境への関心は高いと感じています。森林環境教育へ参加してみたいと思いました。
丹波地域は自身の地元であり、このような活動を通じて、子どもたちが将来地元で根付くことができたら良いと思う。
子供たちに対する教育活動はとても重要なものであると思います。
小学生への地道な教育活動の様子が分かりやすかったです。
子どもたちへの教育が学年に合わせて、様々な教科として、一度だけでなく6年かけて経験しているのがすごいですね。幸せな子どもたちだと思います。経験に基づく学びは忘れられないものになるでしょう。
小学生のうちに、森林と関わることは、未来の森林を守るために重要な事だと思った。
小学生への森林教育：内容も興味深く、素敵な学習体験提供だと思いました。ツリークライミング、つり橋づくり、ブランづくりなど児童さんにとって宝物のような体験ですね。
今から10年ほど前、モデルフォレスト運動で子供たちの森林学習に取り組んでいたことがあり、当時のネイチャーゲームについていろいろ思い出しました。また企画してみたいと感じました。
小学生の年齢に合わせて、森林の理解を深めてもらえる工夫がされていて良いと思いました。
各学年の取り組みについて、写真がたくさんあることで視覚的にも分かりやすかったです。
森林教育によるグループワーク、コミュニケーション、人や環境への思いやりの心がはぐくまれる点が素晴らしいと思いました。
SDGsの一環としての森林学習は有効だと感じた。
教育現場とのつながりは大切だと思いました。
森林環境教育と同様、農業、漁業等についての環境学習により、環境への意識づくりの機会を増やすことが必要。
「森林教育」とてもおもしろい取り組みと思いますが、本当は身近に森林のない地域の子どもたちこそ、このお話を聞かなければならないですね。出張講義や校外学習などで広がることを期待します。
森林教育が全学年を通じておこなうことで、住む町の事業を知ることが出来るとても素晴らしい取り組みだ

<p>と感じました。大人も体験しても良いくらいだと感じます。組合員活動でコラボしたいです。</p>
<p>小学校での体験型の実習は森の大切さや自分たちの生活に森が欠かせないものだという事など多くを学べるので、今後も続けて行ってほしい。こういった活動が京都市内の小学校などにも知ってもらえて広がっていくとよい。</p>
<p><b>(4) 生協：「コープ二条駅店 改装オープンについて」</b></p>
<p>生協のお店のコンセプトや商品だけではなく、様々な活動（エシカル・環境・産直・地域連携）を幅広く実践していることがわかりやすかったです。モノ消費&amp;コト消費</p>
<p>消費者＝組合員である生協ならではの今のニーズにあった店づくりでよく理解できた。今回参加した組合中唯一の消費者の組合なので、他の組合との組合間協同をもっと進めて欲しいと思った。</p>
<p>共同作業所との連携など地域に誰も取り残されない社会環境を作るという事は協同組合活動であると思います。</p>
<p>コンポストの例はJAの支店とかにも導入出来たら面白そう!!地域住民がゴミ→JA→堆肥→組合員に還元する地域農業、家庭菜園の方とかも利用出来たら良さそう。</p>
<p>京都生協は生活に身近な店であり、理念もとてもすばらしいものであると感じました。</p>
<p>二条駅店に一度足を運んでみようと思います。</p>
<p>営利的なところばかりでなく、協同組合らしい組合員や地域のことを考えた取り組みをされており、少しずつ同じような意識をもった組織が増えればと感じた。</p>
<p>自宅から最も近い小売店が京都生協であるため、よく利用させてもらっています。地元の生協も二条駅のようにリニューアルしたらいいな…と思いました！</p>
<p>普段よく利用するコープについて、どのような思いで取り組んでいるのか、地域の方とのつながり等を知ることができました。</p>
<p>コープ二条駅がリニューアルされた旨説明を受け、行ったことがなかったので、行きたいと思いました。</p>
<p>エシカル・エコ（SDGs）といった環境面、地域とのつながり、子育て層など幅広い面を配慮しているだけでなく、利便性なども配慮されていることから集客につながるのかと感じました。中でも、地域との連携では消費者・生産者ともにプラスになることだと思い、大切にしないといけないことだと思いました。</p>
<p>色々な取り組みをされていることがわかりました。</p>
<p>エシカル・エコ・健康などの様々な取り組みにより、消費者への買い物をよりよいものにするための活動が、COOPの推進につながっている。</p>
<p>量り売りが導入されている点が特に良いと感じた。他のお店も量り売りが導入されると、食品ロス削減にもつながると感じる。また、様々な取り組みと積極的に行われており、組合員様の声にも耳を傾けられており、多くの方々に愛されるお店になると感じた。</p>
<p>コープで4階建ては珍しいと感じた。わかりやすい売り場との事なのでぜひ行ってみたい。二条限定の量り売りが気になる。</p>
<p>二条店は生活圏でないため、行ったことはないですが、とても素敵なお店だと知りました。組合員や環境に対する取り組みがよく分かりました。</p>
<p>地域とのつながりを強くするという事を主体とした取組が多く、ファンが増えるであろうと思いました。</p>
<p>新店舗のコンセプト「ゆたかでのしくおいしいエシカルマルシェ」を実現するために、「エシカル・エコ・健康」「子育て層へのアプローチ」「地域との連携」の3つのカテゴリーにおいて取り組んでいる内容について知ることができた。</p>
<p>無印が同店にあることはとても強み。また、他の取り組みを実施されることも素晴らしい。</p>
<p>食品ロス削減のため量り売りの強化、これからの時代に重要な事である。</p>

改装前、改装後もよせて頂いていたので、今後もより良い発展を期待しております。
コープ二条駅に行ってみたくと思った。
食品ロスを減らす量り売りや、生ごみ処理機が特に良い取り組みだと感じました。そのほかにもエコや健康に特化した取り組みは興味深かったです。それぞれの売り上げやどのような効果があったかを知れるとなお良かったです。
組合員の声から生まれた取り組みなので、とてもおもしろい。資料が見にくかったのが残念。
近いのでよく利用しています。コンセプトのとおり、品物が豊富でおいしい物（京都の魚屋さん・お肉屋さんが入っているのもよい）も沢山あり、楽しく買い物ができます。今度はフードバンクを利用したいと思います。
スーパー機能だけでなく、多角的に人が集まる工夫は、消費者としても利用しやすい環境であると感じました。
コープ二条駅何回も行きました。とてもきれいで使いやすいです。
コープの流れがよく分かった。
通常量販店の差別化に努力されており良いことだと思います。一次産業との関りももっと増やして、特色のある店づくりがんばってください。
KYOTO COOL a bを活用して連携できるのでは？
先進的な取り組み、商品、店舗展開をされている事におどろきました。コープ二条駅にはまだ行けていないので足を運ぼうと思う。
エシカル・エコ・健康を意識した取り組みを行っておられることに感心しました。ぜひ店舗に行ってみたくと思います。
訪れたいと思いました。
二条駅での実践が、他店に広がるのを楽しみにしています。
地域にこの様な買い物ができる場所があると、消費者の環境への配慮の意識が高まると感じた。
コープ二条駅のエシカル消費推進についてと、環境にやさしい店づくり、地域との連携について分かりやすく説明されていたと思います。
店舗がある地域も影響しているのだろうが、「エシカル消費」「フェアトレード」などにとっても理解のある組合員が多いと思います。さらに「おいしい」「安い」「便利」以外の価値もアピールできればと思います。
レジで買い物をすまし、レジに沢山の方が並んでいるのに、職員さんはレジに入られないのはなぜですか？買い物の人をあまり待たせない方がよいのではないですか。サービスカウンターに職員さんがおられます。手持無沙汰にしておられます。無印にウオースタンドがありますが、生協でもほしいです。
生協の取り組みが知れてよかったです。消費者目線とちょっと考えてほしい事などに配慮されていて、利用したいお店だと思いました。
生協がたくさんの事を行っていることを知りました。二条駅店にも行ってみたいと思いました。
新店舗は知っていましたが、具体的な取り組みを聞いたのは面白かった。
地域とのつながり、広範囲な業務内容を改めて感じる機会となりました。
エシカル消費がもっともっと広がってほしいと願います。
都市型の大きな店舗として象徴的な存在、トレンド満載。
二条駅店だけでなくすべての店舗が活性化され、同じように盛り上がりますように。
すべての取り組みがSDGsにつながっているとあらためて感じます。
販売戦略が参考になりました。
二条店ではさまざまな取り組みや工夫をされていて、買い物に行くのが楽しみになっている。 杉本先生のお話で産直は京都生協が全国初ではじめたことを知り、組合員さんとともに歩んでこられて今があることがわかった。

来年の国際協同組合年、今年は 60 周年をむかえられるこの機会にもういちどたちもどって、協同組合の在り方を考える機会になればいいと思った。

**[3]その他、お気づきのことがありましたら、ご自由にご記入ください。**

今のところありませんが。資料はカラー印刷して欲しいです。資料が見にくいです。

様々な生協からの活動報告がありましたが、多様性を追求する生協陣営としては、報告者にも多様性があってもよいかと思います。年齢には多様性がありました。すいません。

お互いの組合員同士が交流で来るようなとりくみや仕組みができないでしょうか、例えば J A 京都中央乙訓のふれあい祭の宣伝チラシを、対象地域の生協宅配ルートや店舗で配布、掲示、生協のふれあい祭での仲間づくりをかねたブース出展など、又、森林環境教育を組合員（大学生協の大学生なども一緒に）となど

タイムリーで、今不足していた記念講演、とても良かったです。ありがとうございました。更に地域生協として必要、特化したところを深く聞きたいお話でした。

全体に興味深いお話で有意義であったと思います。

配布されている資料をカラーにして欲しい、写真が多くあるが白黒では見にくいです。

若い方がされることが多い各協同組合からの報告は、毎年楽しみにしています。

お一人お一人のひとと仕事と生活が感じられ、消費者としては賢い消費をすることで人の生活を支えているんだと、責任を感じます。

1つ1つのご報告がユニークでした。何より、皆さんが協同組合で働かれたきっかけ・背景が様々で、そこから引き込まれました(事務局の皆さまによるご選定でしょうか、新しい切り口で大変勉強になりました)。京都生協ファンとして、コープ二条店の内容に大変興味を持ちましたが、漁協様の取り組みは様々な媒体でも取り扱われておりご本人から熱量ある報告を聴くことができ感動しました。事務局の皆さまありがとうございました。